

子どもたちにより良い教育環境を



質問者
南雲 まさ子 議員

(1) 本町の保育の待機児童解消のため受け皿の拡大を考えていくことは喫緊の課題と考えます。その対策として認定こども園や今年度10月から開所する小規模保育所があります。そこで次のことを伺います。

① 町立幼稚園を認定こども園に移行していく予定ですが、メリットとタイムスケジュールは。
② 小規模保育所は、交通量が多い道路に面していますが、安全性の確保は。

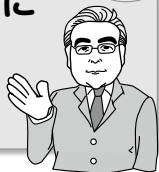


小規模保育所に改修予定の施設

(2) 登下校時の小中学生の持ち運ぶカバン等が重くなっていることから、文部科学省は都道府県に重量に配慮するように通知しています。重いカバンは成長期の体の健康に影響があるといわれています。本町の登下校時のカバンの配慮について、どのような対策を講じているのか伺います。

子育て支援 充実のために

A



回答 (教育長)

(1) メリットについて

保育園と幼稚園の良い面を併せ持つこと等ができる。町立幼稚園を認定こども園に移行する方向性を今年度から協議する予定である。認定こども園への移行は、本町の現状と将来を見据え検討し、保育環境、幼児教育の充実に向けて進めていく。

② 小規模保育所には2歳児の外遊びの場所を設ける必要がある。県道に面した空きスペースを
 予定していたが、安全性確保のため送迎用の駐車場を昼間遊び場として考えていく。
 (2) 本町の小・中学校の通学時の学習道具の持ち物については、文書にて家庭連絡し、児童・生徒に指導して負担軽減に配慮している。
 新年度になり子どもたちの様子を見ながら随時対応し、学年の実態に応じて変更していく。

第6次総合計画における「協働」について



質問者
平野 由里子 議員

総合計画では基本姿勢として3つの柱が挙げられている。

みんなが主役のまちづくり(協働・連携協力)
 魅力があり持続可能なまちづくり(SDGs)
 郷土愛をもって活躍す

人づくり(愛町心十自治精神)
 アクションプログラムもこれらに基づいたものとなっていますが、特に協働について問います。
 (1) 「協働」がわかりにくくと審議会でも問題に

(1) それぞれの主体が役割と責任を意識しながらお互いを対等として尊重し、同じ目標に向かって相互に連携協力することである。協働のまちづくりを推進するためには情

「協働」への理解を深め、啓発に努めます

A



回答 (町長)

なったが、あらためて、協働とは何であると考えるか教えてください。
 (2) 協働について町民と考える取り組みはあるかまた、職員研修は行っているか。
 (3) 「自治基本条例」の適切な運用を審議したり、住民自治の推進について首長に提言をしたりするために、自治基本条例推進委員会を設置する考えはないか。

報共有の取り組みが重要である。
 (2) 自治基本条例の町民への啓発の一環として、3月に協働のまちづくりのワークショップを開催した。今後出前講座や人材バンクの制度設計にも着手する。役場では昨年度、ワーキンググループを設置して既存の業務と条例との関係を整理し、今後の業務について検討を行った。今後も理解を深めるべく職員研修を行う。
 (3) 自治基本条例が形骸化する事のないよう、様々な取り組みの評価・検証を行い、まちづくりに提言ができる委員会の設置を検討する。



自治基本条例リアルすごろくクイズラリーの様子(3月30日)